

## 大事な選択

柴田由紀子

二月十五日に藤田医科大学岡崎医療センターの講堂をお借りして、脳神経内科の伊藤信二先生に『嚥下・呼吸・循環をめぐる終末期の考え方』神経疾患において』の講演会をして頂きました。

緩やかに迎える終末期の医療もあれば神経疾患による病いの中でも進行が早く予後の時間はあっても早急に命の選択を考えなくてはいけない脳卒中やALSやパーキンソン病などの終末期。

先生のお話を聞きながら、自分にとっての終末期と家族にとっての終末期は同じではないと言うこと。

延命治療と延命処置は大きく変わり胃瘻や人工呼吸器は生きるための道具となる時もあることを学びました。

もし、胃瘻の話が出た時は胃瘻をつけてまで生きたくない！と思っていました。が場合によっては胃瘻をつけても食べることでなく他の楽しみを持つ日常があるとしたら：

家族や周りの人の日常が変わらない延命処置もあるのであれば悪くはないと思ってみたり、心がぐらぐらと動きました。

家族や周りの人に大変な時間を自分が与えてしまふことが一番怖いと言うことは変わりませんが、どのような病にどのようなことが起こりどのような処置をするのかを考える時間を頂きました。

最期まで自分らしくいい人生だったと言い切るこゝとが出来る選択を、自分の命の決断を大切な人に委ねないよう、今から家族と話して、たまたま箱にすべて残していきたいと思いました。

私たちの会のためにお忙しい中、

たくさん資料を作成してくださった伊藤先生。

多くの学びを頂けたこと

先生に出会えたことに深く感謝致します。

嚥下・呼吸・循環をめぐる  
終末期の考え方  
～神経疾患において～

藤田医科大学 岡崎医療センター 脳神経内科  
伊藤 信二

2025年2月15日 岡崎ホスピスケアを考える会

## 〔2月勉強会〕

嚙下・呼吸・循環をめぐる終末期の考え方～神経疾患において～

藤田医科大学 岡崎医療センター脳神経内科教授 伊藤信二先生より

51枚のスライドを用意してくださり、脳神経内科医師として日頃向き合っている患者さんを通して、自分の体験や終末期の考え方を教えていただきました。

初めて藤田医科大学岡崎医療センターの2階講堂をお借りしました。

### 〔感想文より〕

★具体的な症例や在宅医療や家族・介護者の負担まで考えて下さっている医師がいることに心強い思いです。

先生のスライドにもありましたが、元気で、まだ余裕のあるうちに難しい課題ですが考える、家族と相談することが大切だなと思いました。

★本日は会員の方に声をかけて頂き参加致しました。私の廻りには、ガン以外の病気の人が少なく全くの無知でした。

私（75歳）は、2年余り前に乳がん（初期）にて片方を全摘し、命の限定があることを認識したことがあって、一日を元気でいようと思い、日々新たに!と過ごしております。術後、特に便秘がひどく、本日お聞きした内容の中で、認知症も含めて予兆があること、少しずつ加齢と共に様々な変化が起きるのだと知りました。

医療がこんなにも進んでいて、医師、廻りの従事者の方々に感謝です。

自分も含めて、より良い生か死かが、ひとりよがりではなく全うできる賢さが必要とも。

大らかに考えられるよう努力したいと思いました。



★自分が認知症になった時、身体が動かなくなった時、終末期になり、管を入れて延命をしないでと子供たちに話してありますが、今日先生の話で、より必要なことだと思いました。参考になる話を聞かせて頂きありがとうございました。

★今回のお話は、非常に参考になり、参加して良かったと思いました。知人にご主人がパーキンソン病の人がいるが、誘えば良かったと反省しています。

神経系疾患そのものがよくわからなかったが、新しい知識を得られて、非常に参考になった。病気だけでなく、患者周辺部の事まで考えてくださっている事に心強さとありがたさを思いました。胃瘻増設に対しても、誤解があったが、今日よくわかった。

★ご自分の患者さんたちを診られた経験から、多くの方々の生き方を教えていただき、ありがとうございました。自分らしく生きるために、何を選択するか、元気なうちにどれだけ話し合うか、私たちも今後、この会員同士で話し合う事ができたら嬉しいです。先生、多くの資料をご準備いただき、ありがとうございました。

★義父をパーキンソン病で10年近くみて、最期は誤嚥性肺炎で入院、延命治療や今後どうしたいかということDrに突然言われ家族で悩んだことを思い出しました。

終末期、以前から義母と延命治療を希望しないと話していたそうですが、娘が納得できず、家族の意思決定までに時間がかかりました。

家族での話し合いや準備も早期に必要なことがわかりました。ありがとうございました。伊藤先生に診ていただきたかったなと思います。



★申し訳ないが、ALSやTIV、NIVその他言葉が初めて聞くものばかりで、なかなか説明に頭が追いついてなかったのが正直なところ。

しかし何となく「終末期」についていろいろ考えさせられ、今後の考え方、視点の参考になりました。ありがとうございました。

★パーキンソン病の父の介護から看取りまでの15年間を思い出しながら先生のお話を聞いていました。最期は誤嚥性肺炎と起立性低血圧のために入院、そのまま看取りとなりましたが、認知症もなく最後まで穏やかな父でした。

先生のお話の通り、長い月日の介護は家族の覚悟と協力そして主治医との信頼関係が大切でした。有意義な勉強会をありがとうございました。詳しい資料と分かりやすい先生のお話、感謝致します。

★今、まさに終末期を意識しながら、日々起きる日常の現実を、受け入れ何とか、夫と2人、助け合い生活する時間を感謝して過ごしたいです。

★盛り沢山のお話をありがとうございました。

91歳お母さまの話「普段から言っておけばこれでいいのだ」とわかりました。私たちの「私のたまたま箱」の意思表示、あまりにも知らず、簡単に考えていたことがわかりました。4月からの新しい「たまたま箱」に胃瘻についても、今日聞いた話をよく考えて書き込みたいと思いました。何かが起きる前に、子供たちと話し合っておきたいです。

★具体例を基に、とてもわかりやすいお話でした。

濃密な内容だけれど、必要なこと、考えの進め方を教えていただいたと思います。

★たくさんの資料を準備してくださりありがとうございました。

家に帰って、ゆっくり読み直したり、主人や家族にも読んでもらって、家族間で話し合おうと思います。

★胃瘻についてとても勉強になりました。考え方が変わりました。参加して良かったです。ありがとうございました。

★大変難しい内容も、かりやすく丁寧にお話をしてくださりありがとうございました。  
良い学びの時になりました。

★元気な時に考えた事と、自分が看護される側になったときの差について、先生のお話で考えさせられ勉強になりました。



★終末期のこといろいろ考えていましたが、今日のお話の事は全く考えていず、とても良い勉強になりました。

★これからのために大変勉強になりました。とても良い機会をいただき感謝です。専門的な知識が得られて良かったです。第2弾があれば？

★自分の最期を考える事、つくづく思い知らされました。有難う御座いました。

★全然知らないことばかりで大変勉強になりました。

★初めて来院しました。大きくて、清潔な病院に感激しました。  
胃瘻の認識が変わりました。 自由を補う道具に過ぎない。

★有難う御座いました。早めに手回し、大切に思いました。



## “つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり  
第4木曜日 10：00～12：00 社会福祉センター（第2活動B室）

今年度も“つどい”に参加して頂きありがとうございます。久しぶりの方、「“つどい”の場がまだあったんですね」と驚きながら参加して下さいました。毎月の“つどい”の日を待っていて下さる方。

みなさんが安心して思いを話せる場となっていたのなら、うれしく思います。

- \*ここでの話は外では話さない。
- \*指導や否定することは言わない。
- \*相手の話は最後まで聞く。

約束事を守りながら、4月からも毎月第4木曜日、社会福祉センターにて開催致します。

御参加をお待ちしています。 (神尾弘美)

## 緩和ケア病棟ボランティアの報告

岡崎市民病院緩和ケア病棟ボランティア室  
毎週金曜日 2：00～2：45 ピアノ演奏のみ



2月に参加した日は、ラウンジにはどなたもいらっしゃいませんでした。でも病室の扉が開けてありピアノの優しい音色は室内にいらっしゃる方にも届いたと思います。ひな祭りが近いということで、預かった折り紙の雛人形も飾らせていただきました。ボランティアに来ている私の方がいつも癒される時間となっています。(伊藤彩子)



## 愛する人と私自身のために 「限りある人生」をどう生きるか

### ◆わたしのカルテⅠ（1～8頁）

- ① 私のプロフィール
- ② 病診歴
- ③ 家族歴
- ④ 健康診断の記録

### ◆終末期の意思表示書（1～14頁）

- ① 終末期の意思表示書
- ② 「参考資料」
- ③ 臓器移植
- ④ ホスピスってなに？  
仏様の言葉

### ◆終末期の在宅ケア（1～12頁）

- ① わたしに必要な援助（絵）
- ② わたしには「こんな協力」が必要
- ③ 「地域包括支援センター」って何？
- ④ 「地域包括支援センター」の仕事
- ⑤ 「地域包括支援センター」の所在地
- ⑥ 「地域包括ケアシステム」
- ⑦ 「ハートページ」
- ⑧ 「あなたと歩む介護保険」
- ⑨ 「高齢者のサービスガイド」

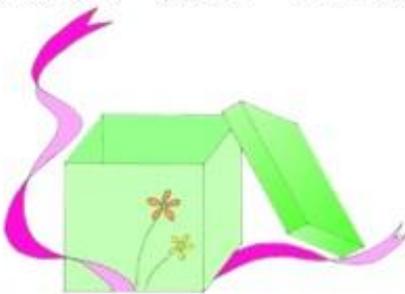
#### ◆「参考資料」

- ①医療機関 ②医療相談室・相談支援センター  
③介護タクシー ④配食サービス事業所⑤家事援助

### ◆遺言書の書き方（1～10頁）

遺言とは

- ① 「私的な遺言の書き方(例)」
- ② 「法的遺言書の書き方」
- ③ 「わたしが死んだら知らせてほしい人」
- ④ 「わたしのお気に入り（写真・手紙）」



### ◆お別れとそれからの手続き（1～10頁）

- ① 「死が近づいた時」（こんなことがおこります）
- ② 葬儀編
- ③ 公的手続き 私的手続き
- ④ 相続の流れ 財産の覚書
- ⑤ その他（ネット会員など）

この“たまたま箱”に入れられた私の想いが  
その時々、ひとつひとつ取り出され  
活かされるなら、最高の宝物になるでしょう。  
これは、愛するものへの心からのプレゼントです。

「私のたまたま箱」は2025年3月に生まれ変わりました。

2000年の初版は3項目だったのを、今回は5項目にしました。追加、変更になったのは

- ① 「終末期の意思表示書」=2月15日の勉強会を経て内容を一新しました。
- ② 「終末期の在宅ケア」=2024年岡崎市の介護事業所など最新の資料を紹介しています。
- ③ 「お別れとその後の手続き」=25年の時を経てお別れを経験した人もたくさんいます。参考にしてもらえたらと思っています。

良い送りができる、残された人たちはその後の人生を心穏やかに過ごすことができます。

「私のたまたま箱」は、互いの心の交流となる最後のプレゼントとなるでしょう。

4月からはこの「私のたまたま箱」に書き込む勉強会を開催します。

たくさんの参加をお待ちしています。

(難波清子)

## アロママッサージの報告

社会福祉センター 第1水曜日 1:00~3:00 誰でも参加OK 材料費 300円

熱いタオル6本 バスタオル1枚 大きなゴミ袋

(可燃不燃ポリ何でも可)

新型コロナ以降、未だに患者さんへのマッサージは再開できておりませんが、それでも毎月たくさんの方々が勉強会に参加してくださり嬉しく感じています。患者さんへの施術はハードルが高いと感じられる方々もいらっしゃるかと思いますが、自分をケアしたい、家族や周りの人々を癒やしてあげたい、生活にアロマを取り入れたい、緩和ケアに興味がある、マッサージで癒やされあいながら雑談を楽しみたい、

そんな方々にもお気軽に参加していただけたらと思っています。

アロマやマッサージは普段はなかなか言えないことを言葉にするキッカケになったり、言葉にしなくても気持ちが伝わったり、心をほぐしてくれたり、そんなコミュニケーションツールとして活躍してくれたりします。是非多くの方に知っていただきたいなと思います。(羽田小百合)

## “手縫い”の報告

岡崎市民病院・国際病院・施設などへ依頼された品を作り届ける。  
第2月曜日 10:00~12:00 カトリック岡崎教会



使い古しのタオル、着なくなった洋服、シーツなど、手縫いで使うものが入った袋から私が取り出した物は、2年前に亡くなった義父のポロシャツでした。

義父はお酒がとても好きで、引っ越しの時、お酒を入れた段ボール箱に「命の次に大切な物」と書いた程でした。晩年は認知症でおかしな言動も多々ありましたが、人柄のせいか笑いを誘うものばかりでした。

義母は8年前に亡くなりました。働き者で70過ぎて仕事を辞めてからは野菜作り、手芸、友達とのバス旅行など人生を楽しんでいました。親族が集まると義父母の話で盛り上がります。そんな光景を天国からニコニコしながら見てくれるかなあと思いながらの手縫いのひとときでした。

(加藤典)

## あとがき

勉強会の感想文を読むと分かりますが、先生が患者さんの症例を教えてくださいと同時に、終末期の意思表示書が書きやすいように私見を書いてくださいました。今後はがん、認知症、循環器病などの終末期を勉強したいと思っています。

(橋詰清子)